

金沢大学環境報告書 2017

【ダイジェスト版】

報告対象期間：2016年度（2016年4月～2017年3月）



金沢大学は、大切な地球と暮らしを守るため、キャンパス、地域、世界をフィールドに、さまざまな環境活動を展開しています。学生、教職員、本学関係者が学び合い、連携し取組むチャレンジを紹介します。

学生が企画から携わるプロジェクト

⑨ 学生活動

金蔵米+野草ちゃぶりんで特産物づくり

「金蔵」ブランドの強化による金蔵地区の地域活性化

地域ブランディング研究会は、体験を通じてブランディングなどの社会に出てから役立つスキルを身に付けることを目標にしています。2016年度は輪島市金蔵地区の活性化を目指し、万燈会の運営・特産品販売・商品開発などを行いました。



金蔵地区



10月の金大祭で特産品の「野草ちゃぶりん」と「もちケーキ」を販売



旧盆に行われる金蔵万燈会の運営に参加。約3万本のろうそくが幻想的

屋外作業や現地の方々と交流を深める活動を実施



東日本大震災・災害ボランティア活動被災地への寄り添い活動

金沢大学ボランティアさぼーとステーションは陸前高田市を中心に2016年度までに34回のボランティア派遣を行い、約1,000名の学生が参加しました。環境整備と現地の方に寄り添うところのボランティア活動を続けています。

金大生限定、伝統のリサイクル市第11回学生リユース市

体育会ヨット部が企画を担当しています。卒業生が不要となった家具・家電を無料で引き取り、清掃と点検を終え、主に新生入生に格安で提供しています。「卒業生や新生入生の役に立ちたい」「モノの大切さを理解してほしい」という思いから続けています。



冷蔵庫・洗濯機3,000円、机1,500円、棚500円など、市場価格の1割程度で提供配達にも対応

金沢大学環境方針

〔基本理念〕

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置づけをもって、グローバル社会をリードする人材の育成と世界に通用する研究拠点の形成を目標に定め、〈先魁・共存・創造〉というコンセプトのもと、不断に改革に取り組むこととしています。

この理念と目標に基づき、教育、研究、診療、社会貢献等あらゆる大学の活動において、国立大学法人としての社会的責務を自覚し、以下の基本方針の下、人間と自然とが調和・共生する持続可能な社会の構築を目指します。

〔基本方針〕

- 1 環境に関する先進的教育を継続的に推進し、持続可能な社会の構築に貢献する人材の育成に努めます。
- 2 環境技術、環境計測、環境政策、環境医学、生物多様性など、幅広い分野において世界的な視野に立ちながら地域の特性を生かした環境に関する研究を推進します。
- 3 本学の活動が環境に及ぼす影響を調査・解析するとともに、環境負荷の低減のため、資源・エネルギーの使用量削減、温室効果ガスの削減に積極的に取り組みます。
- 4 化学物質の安全かつ適正な管理、廃棄物の適正処理と再利用・再資源化により、環境負荷の低減に努めます。
- 5 環境に関わる知的成果を含むあらゆる情報を社会に還元・公開し、環境問題に対する啓発に努めます。
- 6 本学が実施するあらゆる活動において、環境に関する法規・規制・協定等を遵守するとともに、本学の全ての構成員が協力し、継続的な環境マネジメントシステムを実施します。

2014年9月1日

金沢大学長

山崎光悦

〔金沢大学環境マネジメントシステム〕

2016年4月1日現在

全学がひとつとなって委員会やチームを組織。PDCAサイクルによる継続的改善と実行力アップに努めています。

〔施設環境企画会議〕

大学の方針・目標の策定、活動計画の立案など

〔学生・教職員〕

取組みの実施、規制等の遵守など



〔学長・役員〕

全体の評価と見直し

〔環境調査チーム〕

取組みの実施状況の点検、改善のための助言など

金沢大学環境報告書2017

【ダイジェスト版】

2017年10月発行

報告対象期間：2016年度（2016年4月～2017年3月）

発行：金沢大学

お問合せ先：金沢大学 施設部 施設企画課

〒920-1192 金沢市角間町（自然科学5号館1階）

TEL.076-264-6180 FAX.076-234-4030

e-mail faunei@adm.kanazawa-u.ac.jp

環境に関する教育

地域の多様な魅力を知る貴重な機会

ユネスコエコパーク白山地域における留学生を対象とした環境教育の取組み

2016年から、金沢大学留学生センターは白山市と連携して「白山地域学習」を実施しています。留学生は現地体験型学習や合宿を通じて、地元の人びととの交流や集落の仕事の手伝いを体験します。白山地域の自然や文化を学ぶとともに、地域の人びととのコミュニケーションを深めます。山の暮らしを体験



驚きと発見！

Close-Up! クローズアップ

柔軟なアイデアとフットワークで、学生が企画や運営に関わる環境プロジェクト

地域・社会貢献活動

医薬保健学総合研究科の院生と保健学類の学生が参加 インドネシアにおける寄生虫のフィールド調査

途上国における国際医療協力・研究を目的に、2006年からインドネシアで学校健診を実施しています。2016年は7日間の日程で、南西スンバ州ワインヤブ村を調査しました。寄生虫感染症のまん延状態の調査データを現地保健衛生当局に提出し、全学童への駆虫を実施しました。



学童健診と家庭訪問を実施



エイクマン研究所・ハサヌディン大学・金沢大学の合同調査スタッフ



寄生虫検査は主に保健学類検査技術科学専攻の学生が担当

学生活動

里山サークルラウンが大活躍！里山保全活動と大学通学路クリーン作戦

角間の里山を中心に竹林整備、タケノコ掘り、ホタル観察会、留学生との交流会などを行い、保全活動を続けるとともに里山の魅力を発信しています。毎年恒例の「大学通学路クリーン作戦」では、田上公民館主催の清掃活動に参加させていただく形で実施を企画しました。



竹林整備の様子



自然の恵みに感謝！

収穫したたけのこの一部は大学生協の食堂において期間限定メニューとして提供

伐採した竹で作った作品

世界と地域が求めるテーマや分野に取り組む

環境に関する教育と研究

地球環境・持続可能な社会づくりを学ぶ
環境に関する教育

2016年度から共通教育として、「金沢大学(グローバル)スタンダード(KUGS)」に基づく30科目を開講し、環境に関する科目では、「環境学とESD」が選択必修になり、全学の学生が学ぶこととなりました。今後は専門教育・大学院課程教育を対象にした科目の充実を図っていきます。

荒瀬ダムはなぜ撤去に至ったのか?
流域再生に向けた政策転換の実現要因を探る
～ダム撤去から考える～

環境政策論研究室では、ダム撤去としては日本初の試みとなった荒瀬ダムについてのインタビュー調査や資料分析をもとに、流域再生に向けた政策転換が実現する要因を研究しています。



撤去が進む荒瀬ダム(熊本県八代市)

先端的環境・保全学の研究拠点
能登臨海実験施設における教育関係共同利用拠点の展開

能登臨海実験施設では、越境汚染物質である多環芳香族炭化水素類(PAH類)の動物生体への影響評価に着手し、海産無脊椎動物のパファンを用いて有害物質の影響の解析等の研究を行っています。本拠点では先端的環境・保全学の研究を基盤とした教育を国内外の大学等に提供し、高い研究力を持つ人材育成を行うことを目指しています。

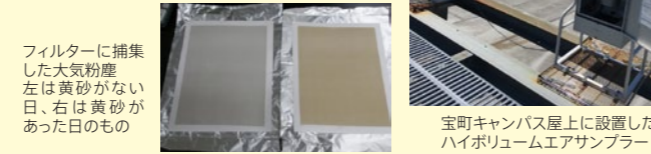
2017年秋に本格稼働予定
小規模下水処理場におけるバイオマス混合メタン発酵の導入

下水汚泥から回収されるメタンガスは再生可能エネルギー。石川県、国立研究開発法人土木研究所、民間企業と共同して、小規模下水処理場にメタン発酵を導入する技術とシステムの開発を行っています。



大気汚染による健康影響を研究
大気中化学物質の呼吸器への影響

大陸から飛来する微小粒子状物質(PM2.5)などの大気粉塵の構成成分が慢性咳嗽(かいそう)患者に与える影響を2011年から研究しています。2016年度には、これまでの研究内容を論文で報告しました。



宝町キャンパス屋上に設置したハイボリュームエアサンプラー

「いしかわ事業者版環境ISO」への登録を更新
2012年度から登録。引き続き、環境負荷の低減を目標に取組みました。

「いしかわクールシェアスポット」に登録
夏の暑い日に涼しい場所を共有することで、家庭の消費電力を抑制する石川県の取組みに賛同し、中央図書館・自然科学系図書館・医学図書館に登録しました。

「附属図書館ブックリユース市」の開催
学生や教職員から不要になった図書を提供してもらい、館内に展示して希望者に自由に持ち帰ってもらうリユース市。毎年2回、春と秋に開催しています。

うちわとブランケットの貸出サービス
館内の空調温度を管理して「省エネ」しながら、少しでも快適に過ごしてほしいと始まった取組み。利用者から好評です。



学内でクールシェアを呼びかけるポスター

学生等にぎざわブックリユース市
計3,200冊を展示

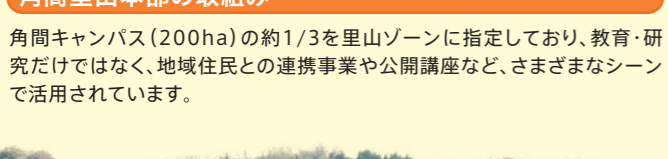
キャラクターの名前アンケートには約700件の投票があり、「エコくま」に決定

角間里山本部の設置
2010年、「21世紀型の里山キャンパス」を作るために設置。管理、教育・研究、連携の3部門を設け、学生・教職員、地域社会と連携して活動しています。

地域住民・NPO・企業・行政と連携
樹木や竹林の管理・保全、管理用道路の整備を実施。学生の教育・研究、実習の他、「角間里山まつり」「学長と汗を流そう!角間の里山下草刈り」などの支援や協力を行っています。

他大学にはないユニークな環境資源を活用
角間里山本部の取組み

角間キャンパス(200ha)の約1/3を里山ゾーンに指定しており、教育・研究だけでなく、地域住民との連携事業や公開講座など、さまざまなシーンで活用されています。



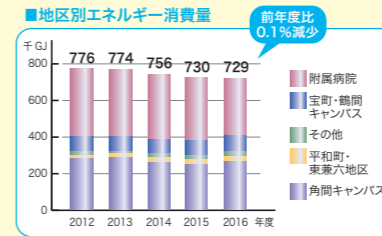
角間の里山での下草刈りに集まったメンバー

環境負荷の少ないエコキャンパスづくり

環境配慮への取組み

室内空調管理、夏季一斉休業などを実施
エネルギー消費

2016年度の消費量は約73万GJ。前年度比で約0.1%減少しました。



自動水洗式への設備改修や日頃の節水
水資源の利用状況

2016年度の使用量は約47万m³で、前年度比で約7%減少しました。

法令の基準値を大幅に下回る
大気汚染物質の排出と抑制策

冷暖房用としてA重油ボイラー、ガスボイラー、ガスタービン・コジェネ設備、ガス発電機などが適正に運転・管理されています。

法令に基づいて適正に管理
化学物質の適正管理と特定化学物質の排出・移動量

PRTR法に基づき、角間地区で取扱量の多い3物質が報告対象となりました。研究テーマなどが年々変化するため、それにともって化学物質の取扱量が変化することが予想されます。

キャンパス環境を支えるエコ活動

バリューチェーンの活動

2009年春に結成したボランティア団体
「金沢大学キャンパス環境整備の会」の活動

定年退職した教職員有志が4~11月に週1回程度(計22回)集まり、角間キャンパス内で草刈りや植樹後の若木の手入れなどを行っています。



活動風景

角間の里山から海外までフィールドは広がる

地域・社会貢献活動

働く楽しさや夢を持つことの大切さ
中学2年生職場体験事業(わく・ワーク)の受入れ

環境保全センターでは金沢市内の中学2年生4名を2日間受け入れました。廃液収集作業や処理過程の見学、山崎学長と将来の夢についての対談、角間の里山散策などを体験しました。

次世代の交通手段として期待が集まる
自動運転自動車の市街地における公道走行実証実験

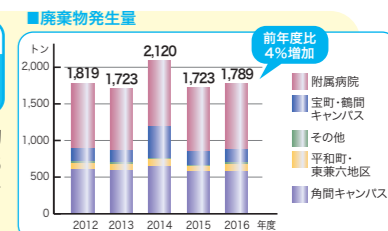
2015年より国内の大学としては初となる市街地における自動運転自動車の公道走行実証実験を開始しました。今後は技術開発を進めるとともに、社会導入を検討する予定です。



公道走行中の様子

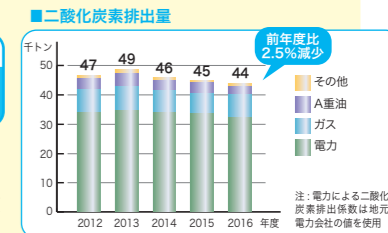
ゴミの分別回収とリサイクルの徹底
廃棄物の排出抑制と再資源化(リサイクル)

廃棄物発生量は1,789トンで、前年比で約4%増加。量をまとめて廃棄する地区があるため、年度により変動しています。分別された古紙は99%、ペットボトルは100%、蛍光灯は94%がリサイクルされています。



通学通勤に伴うCO₂の削減などを実践
エネルギー消費に伴う温室効果ガス(二酸化炭素)の排出と抑制策

二酸化炭素ガス(CO₂)の排出量は4.4トンで、前年比で約2.5%減少。通勤通学や学外活動において、公共交通機関の利用を促しています。



利便性を図り、バス利用をすすめる
交通公共機関の利用促進

北陸鉄道発行の「角間地区フリー定期券」による運行を実施。学生に積極的な利用を呼びかけています。

毎年度方針を決めて環境物品を調達
グリーン購入の推進

7分野207品目のうち1品目(紙類)を除き、目標の100%を達成。紙類は論文投稿等の印刷品質等の要求を満たすため最低必要数量を購入しました。

手軽なところから環境活動を始めよう

金沢大学生協の環境負荷軽減活動～学内で手軽にできるエコ活動～

学生が日常の大学生活の中で、環境負荷軽減活動に自然に参加できる機会をつくっています。

間伐材使用の割り箸「樹恩(JUON)割り箸」の活用
全国6か所の知的障がい者施設で生産された「樹恩割り箸」は、70以上の大学生協食堂などで利用されています。

リサイクル弁当容器「リ・リパック」の回収推進
弁当容器にリサイクルトレイを使用。回収ボックスに入れると1枚10円が東日本大震災ボランティア活動支援基金として寄付されます。

オリジナルマイバック(エコバック)の無料配布
「大学・社会生活論」の環境論で、大学生協の取組みを紹介しています。スクールカラーでデザインされたオリジナルマイバックを学生に配布しています。



「環境論」講義のスライド

環境活動への貢献が認められて受賞
「いいね金沢環境活動賞」の受賞

環境保全センターの吉崎知子さんが金沢市の「いいね金沢環境活動賞(環境保全の部、環境教育・学習の推進分野)」を受賞しました。通学路のごみ拾いのボランティアや「学生リユース市」の運営などが評価されました。

社会貢献活動の一環として

ユネスコスクールをはじめとする学校のESD支援

持続可能な開発のための教育(ESD)を支援しています。2016年はユネスコスクールの全国大会を金沢大学で開催。630名以上が参加しました。

パネルディスカッション後に交流研修会として行われた10テーマ12分科会の様子

